

府立北野高等学校

目次評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の要直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料 2-1

[illegible]

令和6年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート2

府立北野高等学校

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
										コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	Ⅵ. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記							学力調査における学力の伸長に関して、2年から3年においては、維持できており、1年から2年においては、わずかな低下に抑えられている。 大学入学共通テストについては、6教科8科目の受験者の割合は、前年度実績を下回ったものの、高い水準を維持することができており、大変評価できる。	AAA
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 6教科8科目受験者の割合	99.70%	95.0%	98.10%	生徒数 314人 申込者数 311人 受験者 308人	A	継続			
		⑰大学入学共通テストの結果	6教科8科目受験者における得点率の平均	81.40%	80.0%	82.90%	1000点満点中 文系 838.0点 理系 825.9点	A	継続			
	Ⅶ. 課題研究活動	⑱課題研究活動	学会や大学での研究会・研究紀要等での発表数	10件	10件	8件	日本動物学会ポスター発表 1（1人） 日本人類学会ポスター発表 1（3人） プリマーテス研究会発表 5（6人） 天文学会発表 1（2名）	B	継続	課題研究活動については、科学技術コンテストをはじめとした全国規模の大会等への参加を増やし、着実にその実績を上げるなど、探究活動の充実に向けて取り組んでいることは評価できる。次年度以降も積極的な参加を期待したい。	A	
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数（「国レベル」には全国大会出場者を含む）①府レベル②国レベル	①6人 ②2人	①3人 ②7人	①10人 ②9人	①科学の甲子園 1（6人）総合優勝 京都・大阪マス・インターセクション 1（1人）奨励賞 情報オリンピック 2（2人）敢闘賞 数学オリンピック 1（1人）Aランク 地学オリンピック 1（1人）銅賞 ②高校生国際素粒子実験コンテスト 1（1人）最優秀賞 科学の甲子園 全国大会 1（6人） 全日本高校模擬国連大会 1（2人）	A	継続			
	Ⅷ. 英語運用能力	⑳英語運用能力	3年生のうちCEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数	—	90人	40人	CEFR B2（英検準1級相当）以上 40人	A	継続	英語運用能力については、目標値を達成できなかった。この要因を分析いただき、次年度以降の取組みの充実に期待したい。	-	
	Ⅸ. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	219人	200人	225人	北大 6 東北大 2 東大 11 名大 4 京大 102 阪大 59 九大 1 慶応大 5 早大 5 神大 32	A	継続	進学実績については、すべての項目で目標値を上回っており、難関国立大学（東大・京大・阪大）現役・浪入合格者数及び国公立大学現役進学者数においては、前年度実績を大きく上回るなど、高い水準を維持できており、大変評価できる。これらの要因を分析し、さらなる飛躍を期待したい。	AAA	
		㉒進学実績	難関国立大学（東大・京大・阪大）現役・浪入合格者数	157人	150人	173人	東大 11人 京大 103人 阪大 59人	A	継続			
		㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	167人	180人	183人	現役 183人	A	継続			
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	0人	1人	1人	1 (KU Leuven Bachelor of Business Administration)	A	継続			
	総合評価			伝統校のプライドとそれに甘んじない革新的な姿勢を持ち合わせ、ハイレベルな教育活動に取り組んでおり、全体としてのどの項目においても高い実績をあげることができている。個人の能力の伸長だけでなく、学校祭や水泳大会等の学校行事で他者との関係性を築く経験もできていることが大変評価できる。将来キャリアとの具体的な接続と、社会貢献へのイメージをどのように育てていくかが次なる課題となるのではないかと。								AA

令和6年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート1

府立豊中高等学校

資料2-2						
自己評価の結果	A・・・評価以上 B・・・評価に達している C・・・評価以下	評価委員会 評価の結果	AAA・・・極めて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・成果をあげているが改善の余地がある C・・・改善の必要がある	評価会議のコメント		評価
実績	実績の詳細			自己 コメント	次年度の 取組方針	
92%	豊高プレゼンテーションの終了後にアンケートを実施	A	継続			
93%	即興型ディベートが終了後にアンケートを実施	A	継続			課題研究や英語力向上に向けた取組み実績が概ね目標を達成しており、評価できる。課題研究をさらに充実させるためにも、校内体制の整備に努めてもらいたい。
90%	講習終了後にアンケート実施	A	継続			
96%	プログラム終了後にアンケート実施	A	再編			海外フィールドワークへの参加者数は目標には達していないものの、高い水準を維持できていることは評価できる。また、大阪大学の留学生との交流会について、満足度が非常に高い。今後も、国際交流や異文化理解の充実に向けた取組みを進めてもらいたい。
97%	交流会終了後に理解を深めるアンケートを実施	A	再編			
91%	「志学」に対するアンケートでの肯定的回答率	A	継続			
98%	プログラム終了後にアンケート実施	A	充実			学力向上や大学への進路指導にとどまらず、キャリア教育にも注力されている点は、生徒が自分自身の強みを広く発揮する機会につながるため、評価できる。引き続き、生徒の進路実現に向けて取組みを充実させてもらいたい。
96%	すべてのプログラム実施後にアンケートを実施	A	継続			
1年 93.9% 2年 94.1% 3年 93.6%	学校教育自己診断(生徒)の質問項目②、③の平均値	A	継続			相互授業見学を始め、教員の指導力向上に向けた取組みが充実しており、高い実績をあげている。授業に対する生徒の満足度も高く、取組みが成果につながっていることを評価できる。
100%	課題研究委員会に参加した教員アンケートの肯定的回答率	A	継続			
3.1	豊高プレゼンテーションの終了後にアンケートを実施	B	継続			課題研究や授業力向上研修などの取組みについて、他校の生徒や教員が参加しており評価できる。今後も取組む方法について、引き続き、検討を進めてもらいたい。
4.0	参加者満足度アンケート	B	継続			

令和6年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート2

府立豊中高等学校

事業 目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己 評価	次年度の 取組方針	評価審議会の評価		
										コメント	評価	
知識 基盤 社会をリー ドする人材の育成	Ⅵ. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記							学力調査における学力の伸長に関して、1年から2年、2年から3年において、いずれも昨年度を下回っている。伸び悩んでいる要因を分析し、改善に努めてもらいたい。 大学入学共通テストについては、6教科8科目の受験者の割合については、目標値及び前年度実績を下回ったものの、6教科8科目受験者における得点率80%以上の者の割合は、目標値及び前年度実績を大いに上回ることができており、評価できる。	A
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 6教科8科目受験者の割合	89.6%	90%	83%	(出願者 文系143名、理系170名 計313名) 受験者 291名 3年在籍 349名	B	継続			
		⑰大学入学共通テストの結果	6教科8科目受験者における 得点率80%以上の者の割合	16.3%	16%	25.4%	文系41名、理系33名 計74名 受験者 291名	A	継続			
	Ⅶ. 課題研究活動	⑱課題研究活動	学生TAによるルーブリック評価	3.7	3.6	3.6		A	廃止	課題研究活動については、全国規模のコンクール・コンテスト等への参加を増やし、着実にその実績を上げるなど、探究活動の充実に向けて取り組んでいることは評価できる。次年度以降も積極的な参加を期待したい。	A	
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	全国規模のコンクール・コンテスト 等の入賞者数	全国レベル 3グループ	3件	全国レベル 3グループ	日本原子力文化財団 2024年度「高校生による課題研究活動」成果発表会優秀賞 Q-1 U-18が未来を変える研究発表 SHOW2024年大会特別探究賞 JICA国際協力作文コンクール国際協力特別賞	A	再編			
	Ⅷ. 英語運用能力	⑳英語運用能力	3年生のうちCEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数	—	8名	26名	(2年11名、1年9名)	A	継続	英語運用能力については、CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数が目標値を大きく上回っており、評価できる。次年度以降も生徒がより高いレベルの英語運用能力を身に付けらるよう、努めてもらいたい。	-	
		Ⅸ. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	108名	120名	111名		B	継続	進学実績については、スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数が前年度実績を上回っており、また海外大学の合格者を輩出するなど、高い水準を維持できていることは大いに評価できる。次年度以降、更なる飛躍を期待したい。	AA
	㉒進学実績		進路希望達成率 （年度当初の進路希望達成率）	28.0%	30%	26%	京大・阪大・神大 60/232（進学者数/当初志願者数）	B	再編			
	㉓国公立大学への進学		国公立大学現役進学者数	144名	140名	130名	合格者136名 進学者130名 （他、大学校進学2名）	B	継続			
	㉔海外大学への進学		海外大学進学者数（1浪含む）	1名	1名	0名	合格者1名 進学者0名	B	継続			
	総合評価			学力向上や大学への進路指導にとどまらず、卒業生や各界リーダーを招いた講演会を実施するなど、キャリア教育にも注力しており、生徒が自分自身の強みを広く自覚する機会へとつながり、非常に評価できる。また、課題研究と教科教育の統合に向けて教員の意識や取組みが変化している。今後とも、取組みの変革を躊躇することなく、様々な目標を持った個々の生徒の意識の支援に対して学校全体で努めていってもらいたい。								A

令和6年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート1

府立茨木高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・計画とほぼ同等 C・・・計画以下	評価者による 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・計画に近いものがある C・・・計画の達成が必要である
---------	-------------------------------------	-----------------	--

資料2-3

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価者による評価	評価
知 道 基 礎 社 会 を リー ド す る 人 材 の 育 成	I. 豊かな学力の向上を図る	①言語活用力	継続	ディベートを取り入れた英語授業の実施	実施回数	6回 ／講座	6回 ／講座	6回 ／講座	目標を達成した	A	【アンケートによる生徒の評価】 ディベートをすることで英語の表現力が実った	94%	80%	90%	目標を上回った	A	継続	「1年行事委員会活動」での生徒期プレゼンテーションの実施回数が、目標を大幅に上回るなど、「自主自律」の校風のもと様々な学校行事の取組みについて、生徒の力を向上させる工夫があり、大変評価できる。	AA
		②言語活用力・ICT活用力	継続	教科・委員会活動を通じたプレゼンテーション能力の向上	A：「保健」の授業でのプレゼンテーション B：「1年行事委員会活動」での生徒期のプレゼンテーション	A：1回 ／生徒 B：15回	A：1回 ／生徒 B：10回	A：1回 ／生徒 B：36回	目標を達成した	A	【アンケートによる生徒の評価】 A：授業を通して自らの成長を実感できた B：1年行事委員会に参加して充実した活動ができた	A：90% B：92%	90%	A：94% B：98%	目標を上回った	A	継続		
		③基礎学力の向上	継続	道徳目標達成のための基礎的知識や知識を高める読書の充実	図書館の開館日数の確保	205日	180日	196日	目標を達成した	A	A：生徒に対する図書蔵書の貸出回数 B：12年生生徒1人当たりの読書冊数	A：1953冊 B：10冊／1人	A：2000冊 B：10冊／1人	A：1676冊 B：13.2冊／1人	A：達成できなかった B：目標を上回った	B	再編		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をほぐくむ	④共感力・違いを認め共に生きる力	継続	生徒の人権委員会を中心とした多文化共生・多様な受容の取組み	（生徒主体の人権行事に携る）生徒人権委員会の実施回数	3年：5回 2年：21回 1年：9回	各学年5回	3年：6回 2年：8回 1年：5回	3年「阿和問題と人権を学ぶ意義」 2年「国際平和（主に核軍縮について）」 1年「SNS講習会」	A	【アンケートによる生徒の評価】 さまざまな取組みを通じて、深く自問や自分自身を省み、広い視野をもって積極的に他者に関わろうとする姿勢をほぐくむことができた	93%	90%	88%	ほぼ目標を達成した	C	継続	自主自律の精神を掲げた生徒の自主性を養うる取組みは、自ら考える力を伸ばし、リーダーを育成する。将来において大いに役立つものと考え、引き続き、学校の特色として、ぶれずに取り組んでいきたい。	AA
		⑤課題発見力・紛争を解決する力	継続	生徒各種委員会の定例開催と討議内容の充実	実施回数	82回	50回	69回	生徒議会：16回 その他の委員会：53回	A	【アンケートによる生徒の評価】 「文化祭」「体育祭」等の学校行事の取組みは充実したもになっている	93%	90%	96%	体育祭：98% 文化祭：93%	A	継続		
		⑥健康・体力をほぐくむ	継続	リーダー研修Ⅲ（クラブサポート事業）の実施	A：実施回数 B：参加クラブ数	A：5回 B：34	A：5回 B：30	A：5回 B：38	熱中症予防 トレーニング講習 トレーニング講習	A	【アンケートによる生徒の評価】 研修内容を今後のクラブ活動において有効活用できる	99%	90%	97%	目標を達成した	A	継続		
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	⑦高い志・規範意識をほぐくむ	継続	リーダー研修Ⅰ（リーダーとしての資質の養育）の実施	実施回数	15回	10回	12回	リーダー研修Ⅰ、Ⅱ回（取り組み指標の要検討）	A	【アンケートによる生徒の評価】 研修内容を今後のクラブ活動において有効活用できる	99%	90%	98%	目標を達成した	A	再編	卒業生の協力が多く、「卒業生人材ネットワーク」の構築に寄与している。他に七協会の協力も期待したいと考える卒業生がどのような形で貢献することができ、それが生徒の希望とどのようにマッチするのか、今後の発展を期待したい。また、ボランティア活動についても、質を大切にしていることは評価できる。	AA
		⑧高い志・共主力をほぐくむ	継続	ボランティア活動の推進	参加した地域活動等の種別	27	30	35	目標を達成した	A	参加する機会の提供回数	—	20回	35回	目標を達成した	A	再編		
		⑨学びの意欲と自らの将来について深く考える	継続	学問発見講座・卒業生講座の実施	実施講座数・実施回数	24講座 ／年2回	20講座 ／年2回	24講座 ／年2回	学問発見講座：13講座 卒業生講座：11講座	A	【アンケートによる生徒の評価】 「学問発見講座・卒業生講座」は、自分にとって満足できる内容であった。	96%	90%	95%	学問発見講座：93% 卒業生講座：96%	A	継続		
	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩最先端の学びの研究	継続	大学等と連携した「最先端の学び」を知る取組み及び教科・科目の研究会を通じて専門知識を深める取組み	A：大学等と連携した取組みの回数 B：教科・科目の研究会等への参加回数	A：52回 B：36回	A：30回 B：30回	A：45回 B：32回	A：国内外の大学と連携 B：進学関係の研究会や全国の取り組みを研究	A	【アンケートによる生徒の評価】 この先生の授業は意欲的で、科目に対する興味・関心がいっそう深まった	88%	85%	85%	授業アンケート項目より	B	継続	大学等と連携した取組みが充実している。また、英語教育について、効果的な英語教育のあり方について研究していることは評価できる。今度は、英語教育についても、大学等の外部と連携すること視野に入れて取組みを進めていきたい。	A
		⑪授業力向上	継続	バディシステムを用いた互見授業（グループウェア・タブレットの利用を含む）の実施	教員1人あたりの実施回数	4.1回／人	3.0回／人	4.3回／人	目標を達成した	A	【アンケートによる生徒の評価】 この先生の授業は意欲的で、科目に対する興味・関心がいっそう深まった	91%	89%	88%	管理職による独自アンケートより （取り組み指標の要検討）	B	再編		
		⑫授業力向上	継続	研究授業及びグループウェア・タブレットを利用した授業研究・意見交換の実施	実施回数	52回	40回	48回	目標を達成した	A	研究授業及びグループウェア・タブレットを利用した授業研究・意見交換に参加した教員の人数	82名	100名	106名	目標を達成した	A	継続		
	V. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑬GLHS校以外の生徒の資質向上	再編	探究型授業へ他校生徒を招待	探究型授業へ他校生徒を招待回数	1回	1回	2回	本校から地域中学校を訪問し、授業を展開した	A	参加満足度（4段階）	0%	80%	0%	アンケート収集できず	C	再編	課題研究発表会について、他校の教員を招き、ノウハウを共有する機会を作ったことは評価できる。引き続き、GLHS指定校として、様々な形で他校の生徒の資質向上及び他校の指導力向上に貢献する方法を検討いただきたい。	B
		⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	継続	探究型授業の発見及び課題研究発表会（オンライン開催を含む）への他校の教員の参加	探究型の授業発見及び課題研究発表会に参加した教員数	4名	5名	49名	教務高校2名 茨木市の中学校3名 府立高校44名	A	参加満足度（4段階）	100%	80%	97%	新たな知見を得、授業の在り方や組織の改善に着手する機縁を得た。	A	再編		

令和6年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート2

府立茨木高等学校

事業目的	大項目		小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
											コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	共通の取組	Ⅵ. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記						学力調査における学力の伸長に関しては、2年から3年においては、わずかな低下に抑えられているものの、1年から2年にかけては昨年度と同様に推移している。その要因を分析し、改善に努めてもらいたい。大学入学共通テストについては、6教科8科目の受験者の割合が、前年度実績及び目標値を大きく上回っており、大いに評価できる。	AA	
			⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 6教科8科目受験者の割合	89%	90%	98%	351名受験	A	継続			
			⑰大学入学共通テストの結果	大学入学共通テスト 6教科8科目受験者の割合得点率	76%	75%	78%	文系784.5点、理系771.6点	A	継続			
		Ⅶ. 課題研究活動	⑱課題研究活動	多様なテーマを扱う生徒の課題研究講座数	22講座	22講座	22講座		A	継続	課題研究活動については、大阪府主催の大会等への参加をはじめ、コンクールやコンテスト等の成果においても目標値を上回るなど評価できる。課題研究活動で得られた成果を、より多くの生徒が外部で発表できるよう、機会の充実に向けて検討してもらいたい。	A	
			⑲コンクール・コンテスト等の成果	全国青少年読書感想文コンクール・全英連 全国英作文コンテスト等の入賞者数	14名	5名	7名		A	継続			
		Ⅷ. 英語運用能力	⑳英語運用能力	3年生のうちCEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数	—	35名	41名		A	継続	英語運用能力については、CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数が目標値を上回っており、評価できる。次年度以降も生徒がより高いレベルの英語運用能力を身に付けられるよう、努めてもらいたい。	-	
	Ⅸ. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	126名	130名	187名		A	継続	進学実績については、海外大学への進学者数の実績はなかったものの、それ以外の国内大学に関するすべての項目において、前年度実績及び目標値を大きく上回るなど、大変評価できる。これらの要因を分析し、次年度以降も高い水準を維持することを期待したい。	AAA		
		㉒進学実績	東京大学、京都大学、大阪大学、神戸大学の合格者数	107名	110名	142名	京都大学 32名 大阪大学79名 神戸大学31名	A	継続				
		㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	121名	—	160名		A	継続				
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	3名	1名	0名		C	継続				
	総合評価				伝統行事である妙見夜行登山をはじめとする学校行事等を通して「自主自律」の精神が自ら考える力を伸ばしている。また、地域連携にも注力しており、公立高校ならではの良さを活かした実践も評価できる。今後も、卒業生の積極的な協力を活用しつつ、茨木らしい「自由」を堅持した学校づくりを期待する。								A

令和6年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート1 府立大手前高等学校

自己評価の基準		A・・・計画以上 B・・・おおよそ計画通り C・・・計画以下		評価者評価 評価の基準		AAA・・・素晴らしい成果をあげている AA・・・良い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・数値的見直しが必要である C・・・数値の見直しが必要である		資料2－4							
前年度実績		目標値		実績		実績の詳細		自己 評価		次年度の 取組方針		評価者評価の コメント		評価	
学 生 の 関 心	①76% ②生徒 89% ③教員 96%	①77% ②生徒 90% ③教員 96%	①80% ②生徒 95% ③教員 92%	①スーパーサイエンス・グローバルリーダーマインドセットテスト表現力の項目の平均値 ②学校教育自己診断 教員8、生徒9：ICT項目より		A		継続							
	39%	45%	34%	大学入学共通テスト 文理科（6教科は科目） 1000点満点の割合等・観点・ベネッセによる指定校との対比（文系54人、理系54人）		C		充実				一部項目を除き、目標には達していないものの、特に、言語活用能力・ICT活用能力、英語運用能力について、高い成果が得られている。後は、基礎学力の向上に向けた取組みの充実に努めてもらいたい。		A	
全 国 の 着 目	139%	140%	136%	大学入学共通テスト英語筆記の全国平均（総合型発表発表率）57.87点に対する大手前の平均78.5点の比 78.3/57.87＝135.6%		B		継続							
英 語	100%	100%	100%	参加生徒の満足度アンケートより		A		継続							
学 習 意 欲	94%	95%	96%	学校教育自己診断「学校生活に満足している」と答えた割合（H31に指標変更）		B		継続				海外スタディツアーへの参加者が多いことから、国際交流のコースの幅が広がり、参加者の満足度も非常に高い。今後引き続き国際交流の充実と、異文化理解の促進につなげてもらいたい。		AA	
志 望 学 校	109%	100%	111.4%			A		継続							
社 会 に 関 心	89%	90%	93%	卒業生のアンケートより		A		継続				ボランティア活動への参加者が大幅に増加し、その成果がアンケート結果として表れていることは評価できる。また、卒業生による講演会の回数が増え、昨年度実績を上回っていることも評価できる。これらの取組みは、生徒が社会への視野を広げ、高い志をもつきっかけとなっている。		AA	
人 数	1872人	1850人	2075人	9.8増減 2023 1872人 2022 3083人		C		継続							
課 外 活 動	82%	85%	90%	スーパーサイエンス・グローバルリーダーマインドセットテスト#28社会貢献意識の項目より		A		継続							
進 路 指 導	83%	85%	84%	学校教育自己診断「学校は進路に関する情報を積極的に提供している」と答えた割合 前年度数値87.8%を修正		B		継続				校内での授業見学に加え、他校への見学の実践があることは、教員の指導力向上につながるものと考えられるため、評価できる。引き続き、教員が、自分のみならず、他校も含めて積極的に授業見学を行うことができるよう、機会を設けることに努めてもらいたい。		A	
課 外 学 習	3.46	3.5	3.51	後期授業アンケート集計		B		継続							
校 に 関 心	3.32	3.35	3.46	今年度より4段階表示後期授業アンケート質問5「先生は教科書の他、役に立つ教材やICT機器などを効果的に使っている」の全教員の平均値		A		継続							
学 校 の 活 動	①3.61 ②3.8 ③3.84	①3.7 ②3.8 ③3.8	①3.47 ②3.68	①マサフェスタ発表者アンケート ②マサキャン ③プログラミング学習会アンケート		B		継続				マサキャンにおいて海外の著名な数学の先生を招聘し、英語で実施したことは、教員の指導力向上につながるため評価できる。		A	
学 校 の 意 義	100%	100%	100%	マサフェスタ引率者アンケートより（自由記述アンケートのため、肯定意見抽出）		A		継続							

令和6年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート2

府立大手前高等学校

事業目的	大項目		小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
											コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	共通の取組	Ⅵ. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記							学力調査における学力の伸長に関しては、2年から3年の推移については、改善が見られるものの、1年から2年においては、昨年度を下回る結果となった。その要因を分析し、改善に努めてもらいたい。 大学入学共通テストについては、6教科8科目受験者全国平均の125%以上の者の割合が前年度実績及び目標値を下回ったものの、受験者の割合については、前年度実績及び目標値を上回っており、大いに評価できる。	AA
			⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 6教科8科目受験者の割合	89%	90%	91%	321/353人	B	継続			
			⑰大学入学共通テストの結果	6教科8科目受験者全国平均の125%以上の者の割合	39%	45%	34%	108／321人（33.6%） 文系：54／108人（50.0%） 理系：54／213人（25.4%）	C	充実			
	Ⅶ. 課題研究活動	⑱課題研究活動	全国規模での大会の発表本数（組数）	3組	3組	4組	SSH全国発表会1組5人 全国数学生徒研究発表会「マスフェスタ」3組16人	A	充実	課題研究活動において、全国規模の大会での発表本数について、前年度実績及び目標値を上回ったものの、昨年度から分野及び本数が減少している。次年度以降、積極的な参加を期待したい。	B		
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数 ①府レベル、②全国レベル	①19組 ②4組	15組	①4組 ②3組	①大阪サイエンスデイ 最優秀賞、科学の甲子園 府大会6位、学生科学賞3位、 マサイインターセクション ②生物・数学・情報オリンピック	A	継続				
	Ⅷ. 英語運用能力	⑳英語運用能力	3年生のうちCEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数	-	100%	44%	160人／360人	B	継続	英語運用能力については、目標値を達成できなかった。この要因を分析いただき、生徒がより高いレベルの英語運用能力を身に付けられるよう、次年度以降の取組みの充実に期待したい。	—		
	Ⅸ. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	111人	125人	128人		A	継続	進学実績については、スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数が、前年度実績及び目標値を上回っており、また国公立大学の現役合格者についても高い水準を維持できていることは大いに評価できる。次年度以降、更なる飛躍を期待したい。	AA		
		㉒進学実績	国公立大大学（現浪）進学率 （対象年の現浪国公立大学合格者数/対象年3年在籍数（平均して動向を把握）を国公立大大学（現浪）進学率として設定）	66.4%	68%	64%		B	継続				
		㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	141人	145人	141人	合格150人、進学141人	A	継続				
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	0人	2人	0人		B	継続				
	総合評価				マスフェスタやマスカンプ、プログラミング学習会を開催し、自校のみならず中学生を含む他校の生徒の資質の向上に貢献しており大変評価できる。また、卒業生等の各界リーダーによる講演会等、自ら進路を考える機会を多く設定したり、文理選択の時期を変更したりするなど、意欲的な教育課程の対応を図られており、さらなる発展を期待する。								A

府立四條畷高等学校

資料2-5

府立四條畷高等学校

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
										コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	Ⅵ. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記						学力調査における学力の伸長に関しては、1年から2年については昨年度から低下幅が抑えられ、2年から3年については、プラスに伸長し、改善が見られるなど大いに評価できる。 大学入学共通テストについては、6教科8科目の受験者の割合は前年度実績をわずかに下回ったものの、得点率80%以上の割合については、前年度実績及び目標値を大きく上回っており、大いに評価できる。	AA	
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト6教科8科目受験者の割合	84.90%	80%	84.46%	在籍354名のうち340名が受験 受験340名のうち299名が1000点受験	A	継続			
		⑰大学入学共通テストの結果	大学入学共通テスト6教科8科目受験者の得点率80%以上	34名 11.4%	15%	23.41%	目標値を大きく上回ることができた。	A	継続			
	Ⅶ. 課題研究活動	⑱課題研究活動	外部でのポスター、プレゼン発表数	51班 215名	30班	41班 160名	システム制御学会・SSH生徒研究発表会・日経STEAMシンポジウム・マスコスタ・SKYSEF2024・MeetTheKyodaiChemistry・住高探究フェスティバル1・住高探究フェスティバル2・京都大学WPIサイエンスシンポジウム・四條畷市立くすのき小出前授業・大阪サイエンスデイ1部・大阪サイエンスデイ2部・AcademiQsummit2024・マスコフォーラム（横浜サイエンスフロンティア高校）・SDGs QUEST みらい甲子園	A	継続	外部での発表数については、前年度実績を下回ったものの、新たに設定した目標値を上回るなど、校外での発表活動が充実しており、評価できる。また、コンクール・コンテスト入賞者数についても高い水準を維持しており、学校全体で探究活動の充実に向けて取り組んでいることは大変評価できる。次年度以降も維持されることを期待したい。	AAA	
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	外部のコンクール・コンテスト入賞者	71名	10件 30名	31件 58名	システム制御学会（協賛企業賞）・SSH生徒研究発表会（ポスター発表賞）・未踏ジュニア（修了・スーパーリエイタ認定）・日本心理学会プレゼンバトル（全国大会進出1）・京都大阪マインターセクション（優秀賞1、奨励賞3、アイデア賞1）・生物学オリンピック（最優秀賞1）、テクノ夢2024（奨励賞1）、切ちゃん科学賞（佳作2）、日本学生科学賞（入選2等）、情報オリンピック（本選出場1、1次予選通過13）、大阪サイエンスデイ2部（優秀賞1、金賞2）、SDGs QUEST みらい甲子園（ファイナリスト1）	A	継続			
	Ⅷ. 英語運用能力	⑳英語運用能力	3年生のうちCEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数	—	B2 20名	B2 54名	3年次には英語力を客観的に測るテスト・検査は実施していないため2年次1月の数値であるが、目標を上回っている。	A	継続	英語運用能力については、CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数が目標値を大きく上回っており、評価できる。次年度以降も生徒がより高いレベルの英語運用能力を身に付けられるよう、努めてもらいたい。	-	
		Ⅸ. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	68名	90名	84名	目標値には達しなかったが、前年度を大幅に上回った。生徒の第1志望を優先した指導はできている。	B			継続
	㉒進学実績		①国公立大学合格者数200名以上 ②難関3国公立大学（京大・阪大・神大）合格者数70名以上	①182名 ②59名	①200名 ②70名	①211名 ②74名	①②ともに前年度より大幅に増加し、目標値を上回った。	A	継続			
	㉓国公立大学への進学		国公立大学現役進学者数	121名	150名	195名	現役国公立大学進学率55%の結果となり、目標の数値を大幅に上回った。	A	継続			
	㉔海外大学への進学		海外大学進学者数（1浪含む）	2名	1名	0名	今年度は、海外への進学はなかった。	B	継続			
	総合評価			教員の授業力向上、地域連携、学力向上、探究充実、キャリア意識向上、GLHSとして全てにおいて充実した取組みに加え、課題研究の成果、進学実績でも前年度を上回る実績をあげており、公立高校の強みを生かし地元を大切にしつつも、一方でグローバルな視座を育むなど両輪で幅広く学校運営できており、引き続き活躍を期待する。								AA

府立高津高等学校

資料2-6							
自己評価の基礎	A…計画通り B…おおむね計画通り C…計画外	評価委員会 の評価結果	AAA…おおむね達成を認めている AA…達成度を上げている A…ほぼ達成している B…一部達成している C…達成度が低いと判断する等である				
前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己 評価	年度の 取組方針	評価委員会の評価 コメント	
学生 生活 向上	①100% ②46人	①100% ②63人	①本年度当初の実施により、学生の参加が身に着くと共に周囲への理解の促進を図ることができ、多様な学びやキャリア教育で新しい生徒のライフワークネットとしての役割を発揮することができた。	A	継続	課題研究について、論文の執筆にも力をいれており、生徒の意欲を伸ばすに貢献していることに加え、高3程度まで、また、国際交流において卒業生など活用できる場を設定しており、中でも留学生の交流プログラムについては、他校の生徒も多く参加しており、生徒は刺激を受けることができると考えている。	
学習 活動	①施設 95.3% ②授業 100% ③その他 99%	①施設 93.4% ②授業 97.9% ③教材利用 100% GLHS10% ④その他 100%	①実業科を教える、教師間のノウハウの伝達などとしつづけているほか、外部機関とも連携を働き、専門技師からのアドバイスを受けながら授業を実施。 ②3年間を通して研究を体験し、論文発表会などを求めるプロセスを身につけることができた。	B	継続		
社会 活動	①生涯 98.7% ②課外 94.3%	①生涯 99.9% ②課外 95%	①いずれのコースもSDGsをテーマにした探究活動に設定し、満足度は95%を超えている。また、各分野ごとに、自己啓発と情報的・技術的なスキルを習得するための科目を取り入れることで、他校と比較して、本校生徒での参加率が高まっている。また、GCHSは本校以外から参加し、他校職員がいる。また、本校で施設見学が行われるプログラムを実施した。	A	継続		
健康 活動	①運動 98.7% ②課外 94.3%	①運動 99.9% ②課外 95%	①自主性、各自自らが中心となって生徒主体で実施することができ、生徒は積極的に取り組むことができ、運動習慣の定着により充実した行事とすることができた。	A	継続	記事等について、自主性や個性という観点から、生徒主体となり、自分たちで考えたり判断する能力を身に付けていくことができることが、生徒・保護者の期待の高さから見て取りたいと考えている。	
職業 活動	①96% ②100% ③100%	①95% ②95% ③100%	①活動を通じて生徒が社会貢献意識の大切さを認識するとともに、関係団体より支援され、継続的に活動している。 ②コロナ禍前と後程度の、よりの充実した内容で実施し、生徒と交流を実施している。	A	継続		
国際 活動	①96% ②100% ③100%	①95% ②95% ③100%	①生徒の興味関心を高め、環境を拡大するきっかけとなる。 ②各事案で海外の生徒と英語で交流し、世界グローバルに目を向け、国際感覚を磨いている。 ③事前学習なども行っており、深い学びが実現できていることを実感することができる。国際性と科学のリテラシー向上に寄与することになる。	A	継続	①1年生での職業体験実習、2年生での研習実習は、様々な職業への取り組みが図られてきたことから十分に広がっているのではないかと、また、国内外の大学や高校などの連携し取得済みを実施していることは、グローバル人材の育成に欠かせない。国際性の面で優れていることは、グローバル化の進展に伴って、ますます必要とされている。	
国際 活動	①1年 62% ②2年4% ③3年3% ④1年98% ⑤2年49%	①1年 80% ②2年2% ③3年1% ④1年 87% ⑤2年96.6%	①土曜講習は、学力向上層級スクジュールに基づき実施。 ②1年難関校向け「働くとは」について書き出し、自分の進路を見出し、自分の進路を実現する契機となっている。また、経済産業省は、本校からの講師の派遣を受ける機会があり、数回がフィードバックとして、今後の研究に役立てることに、自身の進路選択について、自主的に、より深く考える機会となった。	A	継続		
地域 活動	87%	85%	88%	初任者・ミドルリーダー層の教員が公開授業を実施、互いの授業を拝見し合い、意見交換することで、切磋琢磨することができる。	A	継続	授業見学やオリジナル教材の工夫と、教員の指導力向上につながる取組みが進んでいることに加え、今年度は、経済圏土の教材の共有化を進めることなどにより、さらなる指導力の向上に果たす役割を果たしている。
国際 活動	91%	85%	93%	高度連携プログラムKSPに基づく、学年に応じた適切なダイナミックな学修機会を開くとし、「進路決定支援」プログラムを構築させている。	A	継続	
国際 活動	①3.45 ②3.40	①3.3 ②3.3	①3.49 ②3.46	※6月・11月の夏期平均値 ①平成29年度～令和元年度との向上している。電子黒板やICTの活用など、教材に工夫が見える。	A	継続	
国際 活動	3.4	3.5	3.8	参加校、希望者が増加傾向と増加。次年度以降のものについて、国際交流センターと定期的に検討していく。	A	継続	国際交流や課題研究などの取組みにより、他校等ともよく関係していることに加え、他校の教員との交流会を開催するなど、積極的な繋ぎを密接に行い、今後より好評であると期待される。
国際 活動	①4.0 ②23.6	3.3	①4.0 ②24.0	①10/23実施の「高専サイエンスお祭り交流会」において、他の高専や中学校職員と採択に対して意見交換および本校のノウハウをレクチャーした。 ②国内で4回の事前学習を経て、台湾サイエンスツアーを実施。台湾の高校生と両校を共同で行い、英語での発表大会を実施した。	A	継続	

令和6年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート2

府立高津高等学校

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
										コメント	評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成	共通の取組	Ⅵ. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記						学力調査における学力の伸長に関しては、1年から2年については昨年度からわずかに低下したものの、2年から3年については、改善が見られる。 大学入学共通テストについては、6教科8科目の受験者における得点率8割以上の生徒の割合が、前年度実績及び目標値を大幅に上回るなど、大いに評価できる。	AA	
			⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 6教科8科目受験者の割合	85.5%	85%	86.4%	3年生生徒数353名中、305名が6教科8科目型で受験した。「高津進路プログラム（KSP）」に基づいた指導の結果、多くの生徒が自分の志望を貫き最後まで努力を続けている。	A	継続			
			⑰大学入学共通テストの結果	6教科8科目受験者における得点率8割以上の生徒の割合	16.3%	20%	31.9%	適切なタイミングでの進路指導や講習等の結果、目標を大きく上回る結果となった。	A	継続			
		Ⅶ. 課題研究活動	⑱課題研究活動	課題研究活動を通じて、科学的な調査・分析・整理・発表の道筋を学べたと回答した生徒の割合	82%	90%	80%	目標値を下回ったものの、3年間の体系的かつ全校体制で行うプログラムを確立できており、充実した探究活動を行えている。	B	継続	課題研究活動を通じて、科学的な調査・分析・整理・発表の道筋を学べたと回答した生徒の割合については目標値を下回っているものの、8割を維持できていることは評価できる。課題研究活動で得られた成果を、より多くの生徒が外部で発表できるよう、機会の充実に向けて検討してもらいたい。	B	
			⑲コンクール・コンテスト等の成果	入選数	10本	10本	10本	大阪サイエンスステイ第2部 金賞 京都・大阪マシインターセクション奨励賞 科学の甲子園大阪府大会7位入賞 等	A	継続			
		Ⅷ. 英語運用能力	⑳英語運用能力	3年生のうちCEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数	—	10名	22名	英検準1級以上取得者を含む	A	継続	英語運用能力については、CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数が目標値を大きく上回っており、評価できる。次年度以降も生徒がより高いレベルの英語運用能力を身に付けられるよう、努めてもらいたい。	-	
		Ⅸ. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	93人	80人	85人	近畿圏を中心に全国の有力大学への進路を安定して実現できている。 SGU 49人 GSC 84人	A	継続	進学実績については、国公立大学への現役進学者数が前年度実績及び目標値を大きく上回るとともに、海外大学への進学者についても、前年度に引き続き目標値を上回る実績を上げており、大いに評価できる。この要因を分析し、次年度以降、更なる飛躍を期待したい。	AA	
			㉒進学実績	近畿圏難関国立大学（京大・阪大・神大）及び医学部医学科への現役・浪人合格者数	74人	80人	78人	目標には僅かに届かなかったものの昨年度よりも増加し、京大・阪大・神大の現役合格者数の合計は62名で、過去20年で最多となるなど大きな成果をあげた。	A	継続			
			㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	160人	130人	183人	国公立大学の現役合格者数が195名と過去20年で群を抜いて最多であった。最後まで粘り強く頑張るという指導の下、60名が中後期で合格を勝ち取った。	A	継続			
			㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	2人	1人	2人	ウェスタンコロライナ大など	A	継続			
		総合評価			自由と創造の校是のもと、高津進路プログラムや課外授業をはじめ、人間性を高める自由な取組みが、型にはまらない未来創造型の人財づくりにつながっている。新規採用教員が多いことに対して、対話を促したり、学年委員会を機能させたりするなど、教員の育成にも積極的に取り組んでいる。今後とも、生徒の声に耳を傾け、現代社会の課題に向き合うような探究活動等を通じて、学校の魅力をさらに高めていってもらいたい。								AA

令和6年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート1 府立天王寺高等学校

令和6年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート1 府立天王寺高等学校																	資料2-7		
事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																		コメント	評価
知識・基礎能力の育成	Ⅰ. 確かな学力の向上を図る	①自学自習の確立	継続	模試セミナーの実施及び部活動の促進（巻頭は学校でする自学自習の習慣づけ）	模試セミナー実施回数	20回実施	20回	21回実施	前期10回 後期11回 自学自習（予定→授業→復習）の学習習慣が定着。参加者数1日平均177.9人	A	模試セミナー参加者の満足度 部学習のべ実施回数	模試セミナー22回 部学習50回	模試セミナー満足度90%以上 部学習58回以上	・模試セミナー参加者数 ＝1日平均177.9人 ・部学習参加者数 のべ739名参加	A	継続	天高スタンダードや自主教材など、独自の教育プログラムが確立されており、高い実績をあげているだけでなく、模試セミナー、よでのワークショップ等も取り入れた。	AA	
		②基礎学力の充実・確立	継続	天高スタンダード（各学年で進める学力基準）の見直し	天高スタンダード達成回数の見直し及び自主教材の作成			①自主教材の作成と改訂 ②スタンダードに合った三観点評価方法の見直し	各教科より 各教科より ①自主教材の作成と改訂 ②課題研究評価方法の教員研修	A	天高スタンダード到達目標の達成率	①100% ②100%	90%以上 100%	①予定されていた全教科・科目において、自主教材の活用し学習を実施 ②課題研究評価方法にかかわる研修を5回実施。他校教師も受けて、教科ごとでのワークショップ等も取り入れた。	A	継続	天高スタンダードや自主教材など、独自の教育プログラムが確立されており、高い実績をあげているだけでなく、模試セミナー、よでのワークショップ等も取り入れた。	AA	
		③英語運用能力	継続	校内留学プログラム「Road to GL」の実施	校内留学プログラム「Road to GL」参加者数	1年生28名	60名以上	1年生24名参加	7月30日～8月2日に5.0×5.0cm×4日で実施。9月13日にネイティブ講師を招いて事後指導を実施	B	「Road to GL」参加者の満足度	100%	90%以上 100%	・全員「非常に満足」と回答。93%が、「様々な国の人と積極的にコミュニケーションを取りたい」と回答。「またこのようなプログラムに参加したいと思う」との満足度100%	A	継続	天高スタンダードや自主教材など、独自の教育プログラムが確立されており、高い実績をあげているだけでなく、模試セミナー、よでのワークショップ等も取り入れた。	AA	
	Ⅱ. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	④人権意識、共感力の育成	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 人権講演会及び人権HRの実施	人権講演会及び人権HRの実施	9回実施	計画通りの実施	計画通りの9回実施	1年：ネット社会と人権 いじめ・弱者救済・障がい者権利 2年：社会の中の人権/LGBTと人権 /教育（イラクの子供と教育）3年：国際社会と人権/雇用と人権/3年制のまとめ	A	講演会ごとの生徒アンケートによる満足度	96.8%	90%以上 94.8%	・学校教育自己診断（生徒）「人権教育により人権意識が高まった」肯定評価が、約4ポイントアップした。91.8% 【R5.87.1%】	A	継続	天高育成プログラムにより、豊かな人間性をもった生徒を育てるための仕組み・仕組みが確立されている。様々な伝統行事があり、生徒は個性と協調性を身につけていく。伝統の大切さを学び、それを後世に伝える。	AA	
		⑤健康と体力と協調性を育む	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 林間学校、水泳訓練、水泳大会、金剛登山、徒歩訓練、長距離走大会の実施	林間学校、水泳訓練、水泳大会、金剛登山、徒歩訓練、長距離走大会の実施	計画通りの実施	計画通りの実施	林間学校、水泳訓練、水泳大会、金剛登山、徒歩訓練（2月）	1年：水泳訓練（7月） 林間学校（7月） 水泳大会（8月） 金剛登山（1月） 徒歩訓練（2月）	A	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	94.3%	90%以上 96.9%	水泳訓練97.2% 【R5.93.8%】 林間学校96.6% 【R5.94.9%】	A	継続	天高育成プログラムにより、豊かな人間性をもった生徒を育てるための仕組み・仕組みが確立されている。様々な伝統行事があり、生徒は個性と協調性を身につけていく。伝統の大切さを学び、それを後世に伝える。	AA	
		⑥日本古来の伝統に魅れる（感性の育成）	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 文楽鑑賞及び能楽鑑賞の実施	文楽鑑賞及び能楽鑑賞の実施	計画通りの実施	計画通りの実施	計画通りの実施	1年：能楽鑑賞会（1月） 2年：文楽鑑賞会（11月）	A	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	98.4%	90%以上 98.50%	能楽鑑賞会97.7% 文楽鑑賞会99.3%	A	継続	天高育成プログラムにより、豊かな人間性をもった生徒を育てるための仕組み・仕組みが確立されている。様々な伝統行事があり、生徒は個性と協調性を身につけていく。伝統の大切さを学び、それを後世に伝える。	AA	
	Ⅲ. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	⑦規範意識の陶冶と自尊感情の育成	継続	学校選考委員の指導	学校選考委員の指導	2459件	2000人以上	2111件	1年：423件 2年：459件 3年：1229件	A	部活動への参加率	90.5%	90%以上 90.1%	部活動参加率114% 運動部775名 文化部448名	A	継続	天高育成プログラムにより、豊かな人間性をもった生徒を育てるための仕組み・仕組みが確立されている。様々な伝統行事があり、生徒は個性と協調性を身につけていく。伝統の大切さを学び、それを後世に伝える。	AA	
		⑧高い志の育成	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 京都大学研修会、社会人講演会、学部学科説明会、天高アカデミア等の実施	京都大学研修会、社会人講演会、学部学科説明会、天高アカデミアの実施回数	15回実施	天高アカデミア12回以上	14回実施	①生命の不思議②ビッグス③計算を科学する④たのしみ⑤国語⑥アマテラス和歌のゲーム⑦環境と遺伝的アルゴリズム⑧未来を創造する⑨夢の現実⑩未来の活用⑪未来をつくる⑫現象学⑬未来学⑭未来の未来学	A	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	全平均96.2%	90%以上 97.4%	天高アカデミア+の満足度99.1% 大研修会：97.2% 社会人講演会：95.1% 学部学科説明会：98.2%	A	継続	天高アカデミアや社会人講演会など、大学の企業との関係性を生かすため、グローバル社会に多く役立てられており、生徒の高い志の育成に繋がっている。	AA	
		⑨海外研修等の実施	継続	海外研修（米）及び国内研修（福島）の実施 海外ミニマ（台湾）の実施 海外研修（フランス）の学校との交流の実施	①海外研修及び国内研修の実施 ②海外ミニマ（台湾）の実施 ③海外の学校との交流（オンライン含む）の実施	計画通りの実施	計画通りの実施	①GLHS10校サンフランシスコ研修（7/27～7/31） ②GLHS10校福島研修（12/25～12/27） ③台北市立第一女子高級中学（4/23）、東山高級中学（5/22）、京都府立第一女子高級中学（5/23） ④台北市立第一女子高級中学・武蔵高級中学（3/2～3/4） ⑤ホーランドパーク（3/1～3/16）	A	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	①100% ②100% ③90%	90%以上 100%	①海外研修は、3回の事前研修→本書（7月）→3回の事後研修を経て、2/8の合同発表会でのプレゼンテーション。②国内研修は、1回の事前研修→本書（12月）を経て、報告書を作成。③台北市立第一女子高級中学のサイエンスフェスタで、英語による質疑応答を実施。④ホーランドパーク報告会（4/25全校発表予定）	A	継続	天高育成プログラムにより、豊かな人間性をもった生徒を育てるための仕組み・仕組みが確立されている。様々な伝統行事があり、生徒は個性と協調性を身につけていく。伝統の大切さを学び、それを後世に伝える。	AA		
		Ⅳ. 教員の指導力向上をめざす	⑩研究授業の実施、教員相互の授業見学実施	継続	研究授業の実施 他の教員の授業見学の実施	研究授業の実施回数 教員1人当たりの授業見学回数	①59回 ②9.8回	①20回 ②5回	①57回 ②10.6回	①公開研究授業（11/7）実施 他校より27校、36名が参加	A	生徒授業アンケートによる全体平均（4点満点中）	3.56	3.50以上 3.59	第1回（7月）3.58 第2回（12月）3.60	A	継続	天高育成プログラムにより、豊かな人間性をもった生徒を育てるための仕組み・仕組みが確立されている。様々な伝統行事があり、生徒は個性と協調性を身につけていく。伝統の大切さを学び、それを後世に伝える。	AA
⑪教科指導研修会の実施	継続		外部講師による教科指導法向上の講座の実施	外部講師による教科指導法講座の参加人数	30名	8月29日に研修会実施	①8/29実施 86名 ②2名（新採）	①教科指導研修会（4月）/教員（4月）/伝道（6月）/GL/SSH（6月）/進路（6月）/11月1日）/林間下宿（6月）/市研修（7月）/生徒指導（9月）/保健教育相談（2月）/研修（3月）/前進西成高校にて、天王寺、西成、西成3校の新採研修を実施（9/24）	A	生徒による学校教育自己診断アンケート（授業や教科、教員）の満足度	93.4%	90%以上 94.2%	初年度の2名がオンラインで講義を受講。また各教科・科目の教員がGLHS教員研修に参加し、教科指導法向上に努めた。今後には、新たに履修教員についての研修を計画。	A	継続	天高育成プログラムにより、豊かな人間性をもった生徒を育てるための仕組み・仕組みが確立されている。様々な伝統行事があり、生徒は個性と協調性を身につけていく。伝統の大切さを学び、それを後世に伝える。	AA		
⑫新採用や経験の少ない教員対象の研修会の実施	継続		模試セミナー（若手等）の研修会の実施	模試セミナー実施回数	12回	10回	12回実施	①「探究活動における連携・評価方法等の研修（5回）」1校の1名+教員4名 ②「授業力向上を考える会」（11/8）1校の1名 ③「探究活動における連携・評価方法等の研修（5回）」1校の1名+教員4名 ④「授業力向上を考える会」（11/8）1校の1名 ⑤「探究活動における連携・評価方法等の研修（5回）」1校の1名+教員4名 ⑥「授業力向上を考える会」（11/8）1校の1名 ⑦「探究活動における連携・評価方法等の研修（5回）」1校の1名+教員4名 ⑧「授業力向上を考える会」（11/8）1校の1名 ⑨「探究活動における連携・評価方法等の研修（5回）」1校の1名+教員4名 ⑩「授業力向上を考える会」（11/8）1校の1名 ⑪「探究活動における連携・評価方法等の研修（5回）」1校の1名+教員4名 ⑫「授業力向上を考える会」（11/8）1校の1名	A	参加教員の満足度	100%	90%以上 100%	新採の教員を対象に講義・参加型で実施。「天高育成プログラム」の定例はもとより、その意義・効果について進捗を新採入会へ周知徹底。	A	継続	天高育成プログラムにより、豊かな人間性をもった生徒を育てるための仕組み・仕組みが確立されている。様々な伝統行事があり、生徒は個性と協調性を身につけていく。伝統の大切さを学び、それを後世に伝える。	AA		
Ⅴ. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑬GLHS校以外の生徒の貢献向上	継続	研究部会議への参加を広く呼びかける ②校内課題研究発表会への参加を呼びかける ③天高アカデミアへの参加を呼びかける	研究部会議への参加を広く呼びかける ②校内課題研究発表会への参加を呼びかける ③天高アカデミアへの参加を呼びかける	①8校33名 ②0名 ③5名	合計5校30名以上	①6校40名 ②39名 ③40名	①「探究活動における連携・評価方法等の研修（5回）」1校の1名+教員4名 ②「授業力向上を考える会」（11/8）1校の1名 ③「探究活動における連携・評価方法等の研修（5回）」1校の1名+教員4名 ④「授業力向上を考える会」（11/8）1校の1名 ⑤「探究活動における連携・評価方法等の研修（5回）」1校の1名+教員4名 ⑥「授業力向上を考える会」（11/8）1校の1名 ⑦「探究活動における連携・評価方法等の研修（5回）」1校の1名+教員4名 ⑧「授業力向上を考える会」（11/8）1校の1名 ⑨「探究活動における連携・評価方法等の研修（5回）」1校の1名+教員4名 ⑩「授業力向上を考える会」（11/8）1校の1名 ⑪「探究活動における連携・評価方法等の研修（5回）」1校の1名+教員4名 ⑫「授業力向上を考える会」（11/8）1校の1名	A	GLHS校以外の参加生徒の満足度	①100% ②参加者0名 ③100%	90%以上 100%	福島高校との研究交流について、参加者から「今後、研究を進めるうえでの大きな指針となった。」「質問により、どうすれば聞き手にとってわかりやすい発表になるか」気づきがあった。等々の感想あり。天高アカデミア4・オンラインにより東京府立戸山高校が参加。	A	継続	天高育成プログラムにより、豊かな人間性をもった生徒を育てるための仕組み・仕組みが確立されている。様々な伝統行事があり、生徒は個性と協調性を身につけていく。伝統の大切さを学び、それを後世に伝える。	AA		
	⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	継続	①校内教員研修会への参加を広く呼びかける ②校内課題研究発表会への参加を呼びかける	①校内教員研修会への参加を広く呼びかける ②校内課題研究発表会への参加を呼びかける	①16校24名 ②0名	合計5校15名以上	①24校31名 ②9校18名	①「探究活動における連携・評価方法等の研修（5回）」1校の1名+教員4名 ②「授業力向上を考える会」（11/8）1校の1名 ③「探究活動における連携・評価方法等の研修（5回）」1校の1名+教員4名 ④「授業力向上を考える会」（11/8）1校の1名 ⑤「探究活動における連携・評価方法等の研修（5回）」1校の1名+教員4名 ⑥「授業力向上を考える会」（11/8）1校の1名 ⑦「探究活動における連携・評価方法等の研修（5回）」1校の1名+教員4名 ⑧「授業力向上を考える会」（11/8）1校の1名 ⑨「探究活動における連携・評価方法等の研修（5回）」1校の1名+教員4名 ⑩「授業力向上を考える会」（11/8）1校の1名 ⑪「探究活動における連携・評価方法等の研修（5回）」1校の1名+教員4名 ⑫「授業力向上を考える会」（11/8）1校の1名	A	GLHS校以外の参加教員満足度	①100% ②参加者0名 ③100%	90%以上 100%	「授業力向上を考える会」の参加者より「自分の得意・得意は何か」「自分の得意・得意は何か」等々の感想あり。天高アカデミア4・オンラインにより東京府立戸山高校が参加。	A	継続	天高育成プログラムにより、豊かな人間性をもった生徒を育てるための仕組み・仕組みが確立されている。様々な伝統行事があり、生徒は個性と協調性を身につけていく。伝統の大切さを学び、それを後世に伝える。	AA		

令和6年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート2

府立天王寺高等学校

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
										コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	Ⅵ. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記					学力調査における学力の伸長に関して、2年から3年においては改善が見られるものの、1年から2年においては、昨年度を下回っている。その要因を分析し、改善に努めてもらいたい。 大学入学共通テストについて、6教科8科目の受験者の割合は高い水準を維持できており、大変評価できる。	AAA	
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 6教科8科目受験者の割合	96.0%	95%以上	97.7%	受験343名／在籍351名	A			継続
		⑰大学入学共通テストの結果	大学入学共通テスト 全国平均に対する得点率 《3科目（国数英）平均》	136.7%	130%以上	139.1%	本校平均487.8点／全国平均350.74点	A			継続
	Ⅶ. 課題研究活動	⑱課題研究活動	ルーブリック評価の導入	すべての分野で実施	改善及び校内研究発表における活用	すべての分野で実施	「探究でどのような力をいかに育てるか」を図式化。評価方法等にかかる研修を5回実施。	A	継続	コンクール・コンテスト等の成果については、全国規模の大会等の受験者数が前年度実績及び目標値を、ともに大きく上回っており、学校全体で探究活動の充実に向けて取り組んでいることは大いに評価できる。次年度以降も引き続き、入賞者数についても増加するよう努めてもらいたい。	AA
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	全国規模のコンクール・コンテスト等の ①受験者数 ②入賞者数	①434名 ②7名	①350名 ②20名	①464名 ②4名	①国際科学技術コンテスト（物理12、化学121、生物26、情報46、地学70、地理74、数学111）②国際科学技術コンテスト以外（SSH生徒研究発表会1チーム（4名） SSH生徒研究発表会奨励賞	A	継続		
	Ⅷ. 英語運用能力	⑳英語運用能力	3年生のうちCEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数	－	CEFR B2以上 30名以上	3年14名	3年生 C1:2名,B2:12名,B1:253名 1年次 C1:0名,B2:6名,B1:185名	B	継続	英語運用能力については、目標値を達成できなかった。この要因を分析いただき、生徒がより高いレベルの英語運用能力を身に付けられるよう、次年度以降の取組みの充実に期待したい。	－
		Ⅸ. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	162名	150名以上	172名	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）136名	A	継続	進学実績については、スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数が前年度実績及び目標値を大きく上回るなど、高い水準を維持できており、大変評価できる。これらの要因を分析し、さらなる飛躍を期待したい。
	㉒進学実績		国公立等医学部医学科進学者数（浪人生含む）	25名	20名以上	16名	現役6名 浪人生10名	A	継続		
	㉓国公立大学への進学		国公立大学現役進学者数	164名 （46.6%）	全体の45%以上	158名 （44.9%）	神戸大学、大阪公立大学合格で進学しない生徒あり	A	継続		
	㉔海外大学への進学		海外大学進学者数（1浪含む）	3名	受験者を出す	0名	2浪生以上で2名受験	B	継続		
	総合評価			「授業第一主義、鍛錬主義、本物志向、課題研究、文武両道」の5つを教育の柱とし、天高育成プログラムを実施するだけでなく、それを廊下、各教室に掲示して生徒に意識づけを行い、学力だけでなく、総合知力、体力、持続力などバランスのとれた人材育成が素晴らしい。将来のリーダーとしてのキャリア形成や社会活動において大いに生かされるはずであり、大変期待できる。自校のみならず、大阪府全体の人材の育成を進めようとする広い視野をもち、府立高校のトップランナーとしての活躍を今後も期待する。							AA

自己評価の基準	A…計画以上 B…おおむね計画通り C…計画以下	評価委員会 評価の基準 AAA…きわめて高い成果をあげている AA…高い成果をあげている A…成果をあげている B…取り組んでいるが重大故障の余地がある C…取組の意識が必要である	資料2-8
---------	--------------------------------	--	-------

課題研究について、校外での発表生徒数が増加しただけでなく、中間発表の満足度も大幅に上昇していることは評価できる。3年生の学習時間についても昨年度から大幅に増加しているが、今後は、高い水準で維持できるよう努めてもらいたい。

AA

A

A

令和6年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート2

府立生野高等学校

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
										コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	Ⅵ. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記							学力調査における学力の伸長に関しては、2年から3年については昨年度からわずかに低下したものの、1年から2年については、改善が見られる。 大学入学共通テストについては、6教科8科目の受験者の得点が全国平均の110%以上の割合について、目標値にわずかに及ばなかったものの、前年度実績から大幅に結果を伸ばしており、大いに評価できる。	AA
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 6教科8科目受験者の割合	77.6%	80%	76.8%	268/349=0.7679	B	継続			
		⑰大学入学共通テストの結果	大学入学共通テストの6教科8科目の受験者の得点が全国平均（900点満点）の110%以上の割合	48%	60%	58.7%	158/269=0.5873 文系79/114=0.6929 理系79/155=0.5096	B	継続			
	Ⅶ. 課題研究活動	⑱課題研究活動	アンケートによる「情報収集能力およびプレゼンテーション能力が向上した」と感じる生徒の割合	85%	85%	98%	生徒の肯定割合は98%であり、目標値を大きく上回った。	A	継続	コンクール・コンテスト等の成果において、全国規模の大会への出品数が前年度実績及び目標値を大きく上回っており、学校全体で探究活動の充実に向けて取り組んでいることは大いに評価できる。次年度以降も引き続き、入賞者についても増加するよう努めてもらいたい。	AA	
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	府レベル以上のコンテスト出品数と入賞件数	出品数 （うち入賞数） 全国6件（3） 近畿20件（1） 府27件（4）	全国3件 （1件） 近畿5件 （3件） 府30件 （5件）	右欄参照	A	継続				
	Ⅷ. 英語運用能力	⑳英語運用能力	3年生のうちCEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数	—	3名	2名	3年生 2名 2年生 5名 1年生 0名	B	再編	英語運用能力については、目標値をわずかに下回った。この要因を分析いただき、次年度以降、生徒がより高いレベルの英語運用能力を身に付けられるよう、努めてもらいたい。	-	
	Ⅸ. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	50名	50名	33名	北海道大1、東京大1、東京科学大2、京都大3、大阪大21、広島大1、九州大1、慶応大2、早稲田大1	B	継続	進学実績については、国公立大学への現役進学者数が目標値をわずかに下回ったものの、前年度実績を大きく上回ったことは、大いに評価できる。一方で、スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数が前年度実績及び目標値を大きく下回っている。これらの要因を分析し、次年度以降の更なる飛躍を期待したい。	AA	
		㉒進学実績	進路選択納得率	78%	80%	85%	進路選択納得率は大きく上回った。	A	充実			
		㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	122名	150名	148名	昨年度より大幅な向上が見られたものの、目標値には届かなかった。	B	継続			
		㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	0名	1名	0名		C	継続			
	総合評価			「質実・剛健・自重・自治・至誠」を軸に、高校生活の中で、自己のための学習だけでなく、地域の教育力の向上を図る取組みを通じて、地域社会や他者へ貢献したいという感性を涵養することは極めて重要で評価に値する。課題研究の成果を積極的にアウトプットし、コンテスト等での入賞実績が大幅に増加しており、大変評価できる。探究的な学びと将来のキャリアとの接続を考えられるような仕掛けづくりにも今後期待したい。								A

令和6年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート1 府立三国丘高等学校

資料2-9											
自己評価の基準		A+…計画以上 B+…おおむね計画通り C…計画以下		評価部会長の 評価の基準		AAA…きわめて高い成果をあげている AA…高い成果をあげている A…成果をあげている B…取組んでいるが改善の余地がある C…取組の進捗に改善が必要である					
前年度実績		目標値		実績		実績の詳細		自己 評価			
								次年度の 取組方針			
								評価部会長の評価 コメント			
								評価			
主	・1年 44.8% 2年 51.7% ・100%	・50% 以上 ・100%	・1年 49.3%、 2年 52.9% ・100%					A	継続	組織として課題研究に 取り組んでおり、教員 が共通の理念をもって 指導することができて いる。指導方針をたず ね、文系の課題研究が 活発であり、企業等と 連携していることは 高く評価できる。	A
	・1年 18作 2年 11作 品	・1.2年生作 品 以上	・1年16 作品 2年9作品					A	継続		
	・168班 ・92.5%	・□読み及 び書き 発表100 回以上 ・肯定的感 想が 80% 以上	・172回 ・肯定的評 価92.5%	・中間発表69回、最終発 表69回、SSH19、 SGH15				A	継続		
教	・83.8% ・129人	・肯定的意見 80% ・延べ70 人	・86.1% ・延べ198 人	・NASA24人×3回 SGH33人×2回、オース トラリア研修30人×2回				A	継続	様々な海外研修プロ グラムを想定してい るだけでなく、プロ グラムの効果的なもの となるよう、事前に英語の特別 レッスンを実施して いることは高く評価 できる。また、地域 ボランティア参加者 の参加人数が目標を 上回っており、生徒 が将来地域ととも に活動するための 視野を広げる取組み として高く評価で きる。	AA
	・肯定的評 価100%	・肯定的評価 90%以上	・肯定的評 価100%					A	継続		
	・中止 ・98.3%	・肯定的感想 80% 以上 ・参加者の 増加	・100% ・昨年並み					A	継続		
大	・11件 ・95.8%	・5件 ・肯定的 評価 90%	・6件 ・95.2%	科学の甲子園1件、生物オ リンピック1件、大阪サイ エンスフェスティバル1件、学 生科学賞2件、スタート アップチャレンジ甲子園1 件				A	継続	部活動の加入率が 100%を超えているだ けなく、コンテスト 等においても成果を あげており、豊かな 感性を涵養しながら、 志を高く持つ生徒 が増えている。また、 地域ボランティア参 加者の参加人数が 目標を上回っており、 生徒が将来地域と ともに活動するた めの視野を広げる 取組みとして高く 評価できる。	A
	・171人 (現役131人) ・5人 ・肯定的評 価100%	・154人 (現役107人) ・10人以上 ・肯定的意見 80% 以上	・154人 (現役107人) ・7人 ・肯定的評 価100%	・東大O人(現役O)、京 大23人(12人)、阪大 43人(31人)、北北3人 (2人)、東北大1人(O 人)、名大1人(1人)、 九大3人(1人)、神大 21人(15人)、公大59 人(45人)				A	継続		
	・98.7%	・肯定的感想 や意見 80% 以上	・98.5%					A	継続		
る	・90.9%	・80%以上	・89.6%					A	継続	探究に關して、教員 の取組みが積極的 であり、教員相互の研 究研修で、教員間の 指導力向上を図 り、生徒の指導力 を向上させる取 組をしている。また、 様々な校内研修を 実施して、教員と 生徒の指導力向上 を図る取組みが 定着している。	A
	・171人 (現役131人) ・5人	・150人 (現役100人以上) ・10人以上	・154人 (現役107人) ・7人	・東大O人(現役O)、京 大23人(12人)、阪大 43人(31人)、北北3人 (2人)、東北大1人(O 人)、名大1人(1人)、 九大3人(1人)、神大 21人(15人)、公大54 人(45人)				A	継続		
	・0.9%の 向上	・授業アン ケート 肯定的回 答率1% 以上の 向上	・0.04% の向上	1回目3.9、2回目3.63 (校内平均1回目3.57、2 回目3.60)				B	再編		
・実施 ・未実施	・3.5 ・3.5	・4.0 ・3.9					A	継続	他校から来校研修に 教員を派遣しており、 相互に指導力を 高めるだけでなく、 三田区立高 校の教員と の成果を 共有している 場とな っており、 評価に 値する。	AA	
	・3.8	・3.5 ・3.5	・3.7 ・4.0	・授業発表員13人は私立 学校教員 ・最終発表会後の研修参 加者7名(私立6名、公立 1名)				A			継続

令和6年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート2

府立三国丘高等学校

事業目的	大項目		小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
											コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	共通の取組	Ⅵ. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記						学力調査における学力の伸長に関して、1年から2年、2年から3年のいずれも低下幅を抑えられており、改善が見られる。 大学入学共通テストについては、6教科8科目の受験者の割合は高い水準を維持できており、大変評価できる。また、得点率8割以上の割合も、前年度実績及び目標値を上回っており、大変評価できる。	AAA
			⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 6教科8科目受験者の割合	・91%	85%	・92.3%	314人中290人	A	継続		
			⑰大学入学共通テストの結果	5教科7科目受験者における得点率8割以上の者の割合	・26.4%	25%	・29.0%	290人中84人	A	継続		
		Ⅶ. 課題研究活動	⑱課題研究活動	校外での研究発表グループ数	・のべ37グループ	25グループ	・のべ34グループ	SSH19、SGH15	A	継続	課題研究活動において、校外での研究発表グループ数については、前年度実績には及ばなかったものの、目標値を大きく上回り、評価できる。 課題研究活動で得られた成果を、より多くの生徒が外部で発表できるよう、機会の充実に向けて検討してもらいたい。	B
			⑲コンクール・コンテスト等の成果	府や全国規模のコンクール・コンテスト等の受賞者数	・34人	20人	・20人	SSH16（科学の甲子園6名、生物オリンピック1名、学生科学賞3名、大阪サイエンスデイ第2部銀賞6名）、SGH4（スタートアップチャレンジ甲子園ベストフォーカス賞4名）	A	継続		
		Ⅷ. 英語運用能力	⑳英語運用能力	3年生のうちCEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数	—	300人	・316人		A	継続	英語運用能力については、CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数が目標値を上回っており、評価できる。次年度以降も生徒がより高いレベルの英語運用能力を身に付けられるよう、努めてもらいたい。	-
			Ⅸ. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	・99人	90人	・107人	北大3人、東北1人、福井2人、静岡1人、名大1人、京大23人、阪大43人、神大21人、岡山1人、広大2人、九大3人、早稲田6人	A		
		㉒進学実績		難関国公立大学等（東大、京大、阪大、神大、公大、医学部医学科）の全合格者数（現役・浪人）	・166人	120人	・153人	東大0人、京大23人、阪大43人、神大21人、公立59人、医学部7人	A	継続		
		㉓国公立大学への進学		国公立大学現役進学者数	・164人	140人	・141人		A	継続		
	㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）		・1人	1人	・0人		B	継続			

総合評価	私立高校へCSの授業を公開するなど、公教育としての高校の在り方を模範的な試みにもチャレンジしており、三国丘高校の取組みが社会的意義の大きなものに進化している。とりわけ課題研究については、教員の取組みが積極的であり、教員相互の研鑽等で探究の指導力が向上している。進学先の幅が狭いことが課題であるが、大学でも自由な発想で時には先鋭的な者の中に能力を伸ばす場合も見られるので、生徒には積極性を涵養することで能力を増進する者もあるのではないかと考える。今後のさらなる発展に期待したい。	A
------	---	---

令和6年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート1 府立岸和田高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評審委員等評価の基準	AAA・・・とても高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・計画通りまたは計画の全体的な達成 C・・・計画の達成が不十分である
---------	--------------------------------------	------------	--

資料2-10

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	今年度の取組方針	評審委員会の評価	コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	Ⅰ. 確かな学力の向上を図る	①・学習意欲 ・学力向上	新規	土曜日午前中の講義実施日および土曜日・長期休業中の自習室開放の促進	①講義実施日 ②自習室開放日	—	①12日 ②60日以上	①12日 ②60日	①1年ハイレベル講座ほか、土曜日午前を活用し講義を実施した。 ②土曜日・長期休業中に8:30から16:30まで自習室を開放した。	B	「生徒向け」学校教育自己診断における「土曜日を学習に活用」の肯定的評価	—	75%以上	66.1%	今年度新たな指標に対して、75%以上という目標値を設定したが、結果は66.1%であり、目標を達成できなかった。	C	継続				
		②・思考力・判断力・表現力 ・課題発見・解決能力	継続	課題研究の充実	2年文理課題研究発表会の実施	オール69本、ボスター110本	オール69本、ボスター90本以上	オール64本、ボスター88本	9/12に文理課題研究中間発表会を開催。個人の発表が中心で、今年度は88本のボスター発表を実施した。 1/25に文理課題研究最終発表会を開催し、1年生を含めて、64本のオール発表を実施した。	B	SSHアンケート「文理課題研究を通して「知りたい」と思う気持ちが高まった」の肯定的評価	61.5%	65%以上	66.3%	SSHアンケート「文理課題研究を通して「知りたい」と思う気持ちが高まった」の肯定的評価は66.3%であり、前年度から大きく値が上昇し、目標を達成した。	A	継続	土曜日をうまく活用し、独自のハイレベル講座等を実施することで、生徒の学習意欲を高める取組みがあり、評価できる。海外研修についても、多くの生徒が参加し、生徒の満足度も高いものとなっている。	B		
		③・国際的な視野 ・英語運用能力 ・自己肯定感	新規	グローバルリーダー養成プログラム校務、海外研修の実施	参加者数	—	120名以上	122名	8月に実施したグローバルリーダー養成プログラム校務内版には38名、英語研修には35名が参加した。 9月に実施するオーストラリア研修には49名が参加した。	A	グローバルリーダー養成プログラム校務の海外研修へのアンケートにおける肯定的評価	①99%	95%以上	97.3%	プログラム全体への満足度は97.3%（非満足67.6%、満足29.7%、期待したほどではない2.7%）であった。前年度から値は下がったが、全体的な評価は変わっていない。	B	継続				
	Ⅱ. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をほぐす	④・共感力 ・協調性 ・健康・体力	継続	①部活動の活性化 ②部活動の対外的な活動の実施	①クラブ加入率 ②実施回数	①87.0% ②2回	①85%以上 ②2回	①87.9% ②2回	①クラブ加入者数は839名（4月時点）であった。 ②10/10に「身体づくりのための実施の振り返り」を行い、12/12に「12月のパフォーマンスを向上させるための方法を学ぶ」と題した講演を実施した。	A	「生徒向け」学校教育自己診断「部活動が活発で、生徒は部活動に積極的に参加」の肯定的評価	92.8%	90%以上	95.6%	学校教育自己診断「部活動が活発で、生徒は部活動に積極的に参加」の肯定的評価は85.4%であり、前年度からさらに大きく値が上昇した。	A	継続				
		⑤・社会参画意識 ・社会貢献意識 ・共感力 ・協調性	継続	①幼稚園、小学校との交流 ②地域の公民館の開放やNPO等との連携した取組み	①実施回数 ②地域の公民館の開放やNPO等との連携した取組み	①2回 ②2カ所	①2回 ②2カ所以上	①2回 ②2カ所	①2年生が11月に家庭科の授業で幼稚園と交流した。小学生を対象とした子どもワークショップは12/26に実施した。 ②4月に一般社団法人岸和田シティプロモーション推進協議会、和歌山大学岸和田サテライトと連携した。	B	①参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価 ②地域の公民館をテーマとした研究本数は全体の半数が減少する中、7本に増えた。	①95% ②5本	①90%以上 ②5本以上	①95% ②7本	①前年度と評価は変わらない。 ②地域の公民館をテーマとした研究本数は全体の半数が減少する中、7本に増えた。	A	継続	地域との連携により、社会的な課題解決に向けた研究を行う生徒が増加した。学校として、地域と連携することによって、生徒の成長を促していることが評価できる。	AA		
		⑥・社会人としてのマナー ・進学マナー向上 ・挨拶・服装	継続	①全教員による「通学指導週間」の設定 ②生徒による朝の挨拶運動の実施	①実施回数 ②実施回数	①2回 ②10回	①3回（各学期1回） ②10回以上	①3回 ②10回	①各学期に1回、3日間連続で実施した。 ②おおよそ月1回のペースで実施した。	B	「生徒向け」学校教育自己診断「社会人としてのマナーを身に付けている」の肯定的評価	84.7%	80%以上	85.1%	学校教育自己診断「社会人としてのマナーを身に付けている」の肯定的評価は85.1%であった。	A	継続				
	Ⅲ. 高い志をばぐくみ、進路実現をめざす	⑦・将来像の構想 ・興味・関心の高揚	継続	①卒業生による職業講話の開催 ②学校長等の外部講師による出前講義	①実施回数 ②実施回数	①1回 ②5回	①1回 ②3回以上	①1回 ②3回	①10/19に本校卒業生9名を講師とした「OB・OG講演会」を実施した。 ②2/27に大阪府立高専、12/12にSSH講演会、2/6にSSH講演会を実施した。	B	①参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価 ②参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価	①95% ②90%	90%以上	①91.5% ②91.3%	①卒業生による「OB・OG講演会」の肯定的評価は91.5%であった。 ②「大学出前講義」の肯定的評価は91.3%であった。	B	継続	生徒にとって身近なロールモデルとなるよう、卒業生をつまづ活用し、生徒に高い志をもちさせる工夫がなされている。また、ハイパークラスを設けるなど、生徒のニーズに応える取組みがあり、評価できる。一方で、取組みに対する満足度が大きく減少したことについては要因を分析し、改善に努めている。	A		
		⑧・高い志 ・興味・関心の高揚	継続	①東京方面大学キャンパスツアーの実施 ②SSHサイエンスツアーの実施	①参加生徒数 ②参加生徒数	①5名 ②24名	①5名以上 ②20名以上	①5名 ②27名	①8/1から12/2日まで5名の生徒が東京方面の大学を訪問した。 ②7/24から12/2日の「探究力アップデー」に2名、7/31から2月3日の「生物フィールドワーク」に7名の生徒が参加した。	C	①参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価 ②参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価	①100% ②100%	95%以上	①100% ②100%	①②ともに、参加者全員が肯定的に評価した。	B	継続				
		⑨・高い志 ・英語得意な表現 ・学力向上	継続	①「岸高ハイレベル講座」の実施 ②「岸高スーパークラス」の設置	①実施回数 ②生徒数	①14回 ②80名	①18回 ②80名	①12回 ②80名	①80名の募集に対して102名が希望。80名を選出し、9/7から通学を開始した。開校後4回開校した。②11/12締め切りで文系・理系ともに1クラス40人を募集し、80名を決定した。	C	①1年生アンケート「勉強してよかった」「実力が上がった」の肯定的評価 ②2年生アンケート「クラスに入ってよかった」「実力が上がった」の肯定的評価	①95.4% ②87.9% ③95.7% ④98.5%	「勉強してよかった」「実力が上がった」の肯定的評価は85%以上、「実力が上がった」の肯定的評価は80%以上	①72.9% ②72.9% ③96.9% ④90.7%	①岸高ハイレベル講座に対する肯定的評価が大きくなった。	C	継続				
	Ⅳ. 教員の指導力向上をめざす	⑩・1人1台端末の活用	新規	1人1台端末を活用する校内研修等の実施	実施回数	2回	2回以上（オンライン・事例集作成を含む）	2回	2回	1人1台端末を活用した効果的な授業をテーマとした校内研修を実施した。研究授業の内容について授業実践事例集を作成した。	B	「生徒向け」学校教育自己診断「1人1台端末を活用している」の肯定的評価	90.3%	90%以上	93.8%	学校教育自己診断「1人1台端末を活用している」の肯定的評価は83.4%であり、前年度からさらに値が上昇した。	A	継続			
		⑪・授業力向上に向けた組織的な取組み	継続	①研究授業を含めた授業力向上研修の実施 ②公開授業週間の設定	①実施回数 ②実施期間	①4回 ②各教科3週間×2回	①4回 ②各教科3週間以上	①4回 ②各教科3週間×2回	①11/22（金）に授業力向上研修を実施した。 ②全教科を対象とした公開授業週間は8/26からの3週間、11/11からの3週間に設定した。	B	授業アンケートの項目8「授業に興味・関心を持った」と「学びたい」と「学びたい」の肯定的評価	3.34	3.25以上	3.33	授業アンケートの項目8・9の肯定的評価の全教員平均は第1回、第2回ともに3.33であった。	B	継続	公開授業週間や授業力向上研修等により、授業力の向上に努めている。今後については、教員が授業の質を高め、授業の質や研究活動を行うなど、教員間の成長を促す取組みに努めている。	A		
		⑫・教員としての資質向上	継続	初任者より10年経験者の教員同僚での校内研修の実施	実施回数	11回	11回以上	11回	校長、教頭、事務長、教務長等からの講話のほか、初任者より10年経験者の交流を図る取組みなど、全11回の研修を実施した。	B	参加教員へのアンケート「本研修で知識が広がり成長した」の肯定的評価	100%	100%	100%	参加者全員が肯定的に評価した。	B	継続				
Ⅴ. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑬・GLHS校以外の生徒の資質向上	継続	①課題研究発表会への他校の参加 ②その他、他校との交流を実施	①課題研究発表会に参加した学校数及び生徒数 ②その他、他校との交流回数	①高校3校 ②5名、中学生5名、中学生2名	①2校6名 ②2回	①高校2校6名、小学生5名、中学生2名	①11/25開催の文理課題研究発表会に、小・中学生を含め、他校生徒を招待した。 ②と他校の生徒との交流を図る取組みなど、全11回の研修を実施した。	B	①参加生徒へのアンケート「本研修で知識が広がり成長した」の肯定的評価	100%	95%以上	100%	参加者全員が肯定的に評価した。	B	継続	他校と連携し、生徒の交流を行うことにより、探究活動を深めていることは評価できる。また、教員について、他校の教員と意見交換を行う機会があり、取組みの成果を共有することにより、岸和田高校の教員だけでなく、他校の教員の指導力向上にも貢献している。	A			
	⑭・GLHS校以外の教員の指導力向上	継続	教員研修等の実施	教員研修者等の参加学校数及び教員数	7校9名	5校8名以上	2校5名	7/3に本校主催の「協会の研修会」を開催し、協会の研修会を、各校の取組と連携を共有することにより、学校間の交流を図ることを目指して実施。当日は2校5名の教員が参加した。	C	参加教員へのアンケート「内容は満足いくものであった」の肯定的評価	100%	95%以上	100%	参加者全員が肯定的な評価であった。	B	継続					

令和6年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート2

府立岸和田高等学校

事業目的	大項目		小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
											コメント	評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成	VI. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記									学力調査における学力の伸長に関して、2年から3年については昨年度から改善が見られ評価できるものの、1年から2年については、課題がある。伸び悩んでいる要因を分析し、改善に努めてもらいたい。 大学入学共通テストについては、6教科8科目の受験者の割合については、目標値及び前年度実績を下回ったものの、結果については、目標値を上回っており、評価できる。	B
		⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 6教科8科目受験者の割合	241名 77.0%	240名 75%以上	225名 71.0%	6教科8科目受験者は文系86名、理系139名、合計225名であり、目標値を大きく下回った。	C	継続					
		⑰大学入学共通テストの結果	大学入学共通テスト6教科8科目の 全国平均×1.2以上得点した受験者の割合	文系 35.2% 理系 23.5%	30%以上	文系 33.7% 理系 21.6%	文系は全国平均620点の1.2倍744点以上の生徒は29名/86名で33.7%。 理系は全国平均633点の1.2倍760点以上の生徒は30名/139名で21.6%。	C	継続					
	VII. 課題研究活動	⑱課題研究活動	学校教育自己診断「岸和田高校は、課題研究をはじめとする探究的な学習や、関連行事など特色ある教育活動が行われている。」の肯定的評価	94.3%	93.0%以上	95.5%	肯定的評価は95.5%であり、目標値を大きく上回った。	A	継続			課題研究活動については、科学技術コンテストをはじめとして全国規模の大会等に参加し、善実にその実績を伸ばすなど、学校全体で探究活動の充実に向けて取り組んでいることは評価できる。次年度以降も引き続き、積極的にチャレンジし、更なる飛躍を期待したい。	A	
		⑲コンクール・コンテスト等の成果	コンクール・コンテスト等（国際科学技術コンテスト、SSH生徒研究発表会、高校生国際シンポジウム、大阪府学生科学賞、大阪府生徒研究発表会等）の参加者人数	のべ60名	55名以上	のべ85名	・国際科学技術コンテスト26名 ・SSH生徒研究発表会1名 ・大阪府学生科学賞5テーマ14名 ・大阪府生徒研究発表会1部15名 ・坊っちゃん論文科学賞6名 ほか	A	継続					
	VIII. 英語運用能力	⑳英語運用能力	3年生のうちCEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数	—	5名以上	3名	英語科教員による申告では、C1が1名、B2が2名であった。	C	継続			英語運用能力については、目標値をわずかに下回った。この要因を分析いただき、次年度以降、生徒がより高いレベルの英語運用能力を身に付けられるよう、努めてもらいたい。	-	
		IX. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	41名	35名以上	28名	北海道大1名、金沢大1名、京都大3名、大阪大12名、神戸大7名、岡山大1名、広島大1名、九州大1名、慶応大1名	C	継続			進学実績については、国公立大学現役進学者数及び海外大学進学者数が、前年度実績及び目標値を上回っており、評価できる。一方でスーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数については、前年度実績及び目標値とともに下回っている。この要因を分析のうえ改善を図り、次年度以降の更なる飛躍を期待したい。	A
	㉒進学実績		国公立大学&主要私大（早稲田・慶応・上智・東京理科大・MARCH・関関同立・同女・薬学部・歯学部・医学部）現役進学者数	215名	220名以上	224名	下記の国公立大学に加え、私立大学では同志社大11名、立命館大10名、関西大43名、関西学院大11名など	A	継続					
	㉓国公立大学への進学		国公立大学現役進学者数	138名	135名以上	139名	京都大2名、大阪大11名、神戸大5名、大阪教育大15名、和歌山大42名、大阪公立大38名、和歌山県立医大3名など	A	継続					
	㉔海外大学への進学		海外大学進学者数（1浪含む）	0名	1名以上	1名	過年度生1名がDiablo Valley Collegeに進学	B	継続					
	総合評価			スーパークラスの継続やハイレベル講習の実施等、確かな学力の向上に努めており評価できる。地元の熱い思いを活かした仲間づくりなど、数字に表れにくい良さも岸和田高校ならではの価値ではないか。校長の積極性も教員や生徒の間に浸透して、課題研究や進路実績に次第に反映されつつある。今後は、取組みの中学校への発信など情報発信にも期待したい。									A	